

戸田元議員

## 第1 標題 「「富士道」によるまちづくりについて」

### 1 回目の質問

令和5年6月定例会での一般質問に先立ち、先の富士吉田市長選挙において5期連続当選を果たした堀内市長に、改めまして敬意を表し、お祝いの言葉を申し上げます。誠にありがとうございます。

堀内市長が、新たに5期目の市政を担うことになったことは、これまで重ねてきた4期16年の実績を市民の皆さまが評価し、堀内市長がこれからの市政をさらに前に進めていくことに、たくさんの市民の皆さまが期待している結果であると考えております。

私も、多くの市民の皆さまのご支援をいただき、7期目の当選をさせていただきました。

大勢の市民の皆さまからご期待をいただく中で、「市民ファースト」を掲げ、市民の皆さまの代表の一議員として、新たな決意を持ってしっかりと議員活動を行うつもりでおりますので、よろしく願い申し上げます。

今回、私は、『「富士道」によるまちづくりについて』質問をさせていただきます。

市長は、マニフェストの中で、「富士吉田市をつらぬき富士山頂へ続く「富士道」を世界一の道にする」と言っておられます。

東京日本橋から始まる「富士道」は、富士吉田市の真ん中を北から南に向かい、まっすぐに、富士山の山頂まで通っている、言わば、富士吉田市を支える背骨のような道であり、「下吉田の中心市街地」、「富士山世界文化遺産である上吉田の御師の町」、そして「北口本宮富士浅間神社からスタートする吉田口登山道」の、わが町の持つ唯一無二の3つの資源を、それぞれの特徴を最大限に活用し、まちの活性化に取り組んでいくことで、富士吉田市全体を「世界一の誇れるまち」にしていくものであると大いに期待しているところであります。

下吉田の中心市街地の商店街エリアについては、堀内市長が継続的に進めてきた定住促進策が大きく実を結び、空き店舗などがカフェやゲストハウスなどに改修され、日本人旅行者に大人気となっているだけでなく、SNSで注目を集めた、本町通りからの富士山を目当てに訪れる外国人旅行者からの人気も高く、大いに賑わっているところであります。

この千載一遇のチャンスをしっかりと受け止め、追い風の状況を更に進めて、「稼げるまち」にしていくために、具体的にどのような方策を考えているのか、市長の考えをお聞かせください。

また、その一方で、単純に比べられるものではありませんが、上吉田の御師の町はどうでしょうか？

下吉田のように活性化が進んでいるのでしょうか。

富士山世界文化遺産の構成資産である「小佐野家」と「外川家」がありながら、その価値を十分に活かしきれていないように、私には思えてなりません。

堀内市長5期目のスタートを切る年であり、さらに、富士山世界文化遺産登録10周年の節目でもある、今年度このタイミングで、上吉田の御師の町エリアに加えて、富士山で唯一ふもとから登山することができる、北口本宮富士浅間神社から五合目までの吉田口登山道、こちらも含めて、「世界一誇れるまち、そして世界一誇れる道」にするために、どのようなまちづくりを具体的に考えているのか、市長の考えをお聞かせください。

また、「富士吉田市をつらぬき富士山頂へ続く「富士道」を世界一の道にする」という理念のもと「稼げるまち」とするマニフェストを具体的に実行していくためには、行政だけでなく、関係する諸団体や市内外の民間企業なども巻き込んで、連携・協力して着実に取り組んでいかなければならないと感じておりますが、スピード感をもって市長のマニフェストを推進するための組織体制について、市長はどのようにお考えなのか、お聞かせください。

## 1 回目の市長答弁

戸田元議員におかれましては、この度の市議会議員選挙において、7期連続の当選をされましたことに敬意を表するとともに、心からお祝いを申し上げます。

7期目の市議会議員として、引き続き「市民ファースト」のお立場を貫き、市民のために御尽力されるとの決意に接し、心強く思います。

また、私のこれまでの4期16年の行政実績を評価していただくとともに、今後、私が推進する、「富士吉田市を世界一の誇れるまち」にする政策について、力強いお言葉をいただき、感謝申し上げます次第であります。

戸田議員には今まで以上の御支援、御協力をお願い申し上げるとともに、市民の皆様のためのより良いまちづくりを共に推進してまいりたいと考えております。

それでは、「富士道」によるまちづくりについての御質問にお答えいたします。

まず、下吉田の中心商店街を「稼げるまち」にしていく方策についてであります。戸田議員御発言のとおり、SNSで「映える」スポットとして注目を集める本町通りは、1日1,500人に及ぶ観光客が訪れており、通り沿いだけでなく、周辺エリアにも足を延ばしているため、この機会を絶好の商機と捉え、飲食業や宿泊業を始めている地域の方々がいると伺っております。その一方で、活用されていない空き店舗が多数あることも事実でありますので、本年度、地元商店街に御協力をいただき、まちの歴史を感じられる、大切な資源である空き店舗の利用を促進し、街のにぎわい創出に取り組んでまいります。具体的には、昨年度実施したふるさと納税クラウドファンディングの寄附金を原資とした「富士吉田市まちづくりファンド」を立ち上げ、空き店舗入居時の改修費用の助成などを実施し、空き店舗への出店を強力に支援してまいります。さらに、まちの歴史に基づいた景観が保全され、街並みにふさわしいデザインが形成されるよう、専門家のアドバイスを受けるなかで、空き店舗の調査や情報収集、景観維持のためのルールを策定し、にぎわいのある街並みの実現に向け、スピード感を持って対応してまいります。

次に、上吉田の御師町エリアと、北口本宮富士浅間神社から五合目までの吉田口登山道での具体的なまちづくりについてであります。過日NHKにて放送されました、「鶴瓶の家族に乾杯」を拝見いたしまして、上吉田エリアは、今も富士山と共に生きている町であり、そこに暮らす人々は富士山を深く愛していることを改めて実感したところでございます。そして、江戸の人々が憧れた富士山信仰の拠点であった御師町の文化とその景観をしっかりと守らなければならないものだと強く感じました。折しも富士山世界文化遺産登録10周年を迎える本年度におきましては、残念ながら撤去されてしまった、表通りに面する町御師の格式を示す荘厳な中鴈丸家の表門を、御師旧外川家住宅周辺に移築復活させ、御師文化を後世にしっかりと伝えるとともに、観光客が楽しみながら御師文化を学ぶことのできる「まち歩きガイド事業」を再構築し、おもてなしの受入れ態勢を整えてまいります。

また、富士山で唯一麓から五合目まで登山することができる吉田口登山道につきましては、保護・保全のための様々な規制がありますが、富士山世界文化遺産の構成資

産としての普遍的な価値や、その景観を確実に保全し、後世に継承すること、また、オンリーワンの資源としてしっかりと活用することができるよう、国、県及び関係機関と連携を取りながら、富士山の麓にある富士吉田市として、保全や復元のための調査とともに活用のための計画策定に取り組んでまいります。

次に、「富士吉田市をつらぬき富士山頂へ続く「富士道」を世界一の道にする」というマニフェスト推進の組織体制についてであります。「稼げるまちづくり」を大きな柱に据えるなかで、地域資源の発掘と魅力の創造によりシティプロモーションの強化を図るため、これまでの「ふるさと納税推進室」を再編いたします。具体的には、課としての「ふるさと納税推進室」の名称を「ふるさと寄附推進課」へと変更し、企画部で所管する「地域振興・移住定住課」の名称を「ふるさと魅力推進課」へと変更するとともに、企画部からふるさと納税推進室へと移管するなかで2課体制の「ふるさと創生室」といたします。

また、これまでの取組を更に加速させ、地域経済の発展、まちなぎわいや雇用の創出、ふるさと納税の更なる成長を目指し、まちづくり公社を設立いたします。このまちづくり公社の設立により、地域商社として新たな事業展開を図ることで、「富士道」を世界一の道にしていくことを中心にまちなぎわいの活性化に取り組み、「富士吉田市を世界一の誇れる街」にすることができるものと考えております。

以上、答弁いたします。

## 2回目の質問

『「富士道」によるまちづくりについて』の2回目の質問をいたします。

堀内市長のご答弁にありました、NHKの番組「鶴瓶の家族に乾杯」を私も拝見いたしました。上吉田の御師町、金鳥居から浅間神社までの「たてみち」に住んでいる人々の暮らしは、常に富士山が中心にあるんだなど、強く思いました。また、女優の木村佳乃（きむらよしの）さんが訪れた下吉田地区では、移住者と地元に住む若者たちが交流を重ねていく中で、下吉田の中心市街地でのまちづくりが進んでいることと、あわせて織物産業が復活の道を歩み始めていることが取り上げられ、堀内市長が4期16年かけて積み重ねてきた実績が、大きく実を結んでいるのだなど感じたところであります。

さて、下吉田地区では、「富士吉田市まちづくりファンド」を立ち上げ、空き店舗の利用促進を図り、街のにぎわい創出に取り組むと同時に、街並みにふさわしいデザインを維持するための景観のルールを策定するとのことご答弁があり、ますます「稼げるまち」づくりが進み、「おもてなし」あふれる地域づくりに取り組んでいくものと大いに期待しております。

そこで、堀内市長にお伺いします。上吉田地区では、御師町の文化とその景観をしっかり守らなければならないものだと、ご答弁いただきましたが、御師町の景観、街並みの保全と整備について、これまで行われてきたことと、これからのビジョン、そして今後どのようなスケジュールで取り組んでいくのか、市長のお考えをお聞かせください。

また、上吉田地区のまちづくりを進めるにあたり、地域住民の意見を受け止めていただき、反映させることができる機会を持っていただけることができるのか、あわせて市長のお考えをお聞かせください。

さらに、御師町と浅間神社を結ぶ国道 138 号の拡幅工事では、上宿交差点周辺の用地買収が順調に進んでいるように見受けられますが、上吉田団地へ続く市道諏訪内 1 号線の進捗状況と合わせて今後の見通しをお聞かせください。

以上 2 回目の質問といたします。

## 2 回目の市長答弁

戸田議員の 2 回目の御質問にお答えいたします。

まず、御師町の景観、街並みの保全と整備に関して、これまで行われてきたことについてであります。平成 25 年の富士山世界文化遺産登録以降、御師旧外川家住宅の隣接地におもてなしの空間を創出するため、平成 27 年に「御師町お休み処」を開設いたしました。また、同じく平成 27 年には、一般財団法人民間都市開発推進機構の支援制度等により空き家となっていた町家を御師の街並みに合うよう改修し、現在は、カフェ「北口夢屋」として活用されております。さらに、令和元年には御師旧外川家住宅の道向かいにある御師浅間坊を、若者交流施設としてリノベーションし、郷土愛醸成事業に取り組む N P O 法人かえる舎の活動拠点として活用するなど、御師旧外川家住宅周辺は面的に整備が行われております。

同様に、国道 137 号沿いの店舗や一般住居等につきましては、平成 27 年度から昨年度までの 8 か年に渡り、山梨県との協同により実施する世界文化遺産富士山景観形成支援事業補助金交付制度を積極的に活用していただくなかで、金鳥居から上宿交差点までの沿道に所在する 15 件もの物件において、建物の外観や、屋外広告物と景観との調和に取り組んでいただきました。

次に、御師町の街並みの保全と整備のビジョンとスケジュールについてであります。平成 31 年に策定いたしました、富士吉田市文化財保存活用地域計画に基づき、通り沿いに住む皆様の御理解と御協力を得るなかで整備を進め、観光客が歩いて散策できる、魅力ある空間にしていきたいと思いますと考えております。

今後、設立予定の「(仮称) ふじよしだ・まちづくり公社」において立ち上げを予定している、「富士吉田市まちづくりファンド」により、下吉田地区と同様に、上吉田地区の整備にも取り組んでまいります。

次に、上吉田地区のまちづくりを進めるに当たっての、地域住民との関わりについてであります。御師の家の利活用に取り組む後継者や、空きオフィスを改修したゲストハウスを運営する事業者により、信仰登山や麓からの登山の再興に向けて活動する一般社団法人カノエサルが設立され、今年の火祭りではタツミチでのキャンドルライトアップなどが実施されました。今後におきましても、通り沿いの空き店舗等の利用促進などについて、関係団体と連携を図りながら地元の皆様の御理解をいただくなかで、事業に取り組んでまいります。

次に、国道 138 号の拡幅事業と市道諏訪内 1 号線の進捗状況や今後の見通しについてであります。国道 138 号の拡幅事業につきましては、富士見公園前交差点から富士見バイパス南交差点までが先行整備区間、上宿交差点及び新屋交差点が暫定整備箇所として位置づけられ、国による整備が進められております。

戸田議員御発言のとおり、現在、国は、先行整備区間における用地交渉と並行し、上宿交差点の改良に向けた用地交渉を順調に進めており、令和 6 年度中での建物等の撤去を目指しているとのことでもあります。また、上宿交差点から山神社を通り、上吉田団地付近までを工事区間とした市道諏訪内 1 号線の整備につきましては、山神社から上吉田団地付近までの工事が既に終了しております。なお、残る上宿交差点までの区間につきましても、必要な土地取得や物件補償についての契約を済ませていることから、本年度内での建物等の撤去を予定しております。

今後におきましては、国による交差点改良工事の進捗と合わせ、残り区間の整備を進める予定であります。

以上、答弁いたします。

### 「締めの言葉」

今回、堀内市長の最大テーマである「富士道」によるまちづくりを質問させていただきました。

富士山は世界一美しい山であり、私達、富士吉田市民の宝でもあります。

その、宝を有効活用していくことは、私も共感している所ですが、いくつかの問題点もあると思われれます。

その都度、我々議会と協議していただき、堀内市長の政治手腕に期待して、私の一般質問を終わります。